No. 117

構文・英文和訳 ULTIMATE CHEAT SHEET

英文和訳の超絶テクニック20（減点されない訳し方）

和訳は「構文を取れている」ことを日本語で証明する作業。構造・品詞の変換・訳語選びの20テクで減点を防ぐ。

Web版はこちら

ここだけ3行

1 まず SV と修飾の範囲を確定。訳はその構造が見える形で
2 名詞構文・無生物主語は「文」に戻して人を主語に訳す
3 最後に日本語だけで読み直し、ねじれと訳抜けを消す

和訳はここで見られる

和訳の採点はおおむね「構文を取れているか」「語の意味が文脈に合うか」「日本語として通じるか」の3点で見られる。きれいな日本語でも構造がずれていれば減点、ぎこちなくても構造が正しければ部分点が残りやすい。だから順番は「構造→訳語→日本語の手直し」。

◆ ① 構造を訳に出す 5

☐ 1 SV を先に確定する

主語と述語動詞に印をつけ、修飾語は( )でくくってから訳す。日本語でも「何が・どうした」が1対1で対応するように。

> The number of people who work from home has increased sharply.
> 在宅勤務をする人の数が急増した。

× 「在宅勤務をする人が急増した」（主語 the number が消える）

☐ 2 修飾の範囲を訳で示す

関係詞・分詞・前置詞句がどの名詞にかかるかを確定し、その名詞の直前に訳を置く。長すぎる修飾は切って2文にしてよい。

> Scientists have found a way to turn plastic waste into fuel that can power cars.
> 科学者たちは、プラスチックごみを車を動かせる燃料に変える方法を見つけた。

☐ 3 並列は同じ形で訳す

and・or の後ろの形（動詞の原形・-ing・to V）から前の相方を探し、日本語でも「～したり…したり」とそろえる。

> Reading helps us learn new words and understand other cultures.
> 読書は、新しい言葉を覚えたり、ほかの文化を理解したりするのに役立つ。

× learn と understand を別々の主語の動詞として訳す

☐ 4 非制限の関係詞は訳し下ろす

カンマ＋which・who は前から順に「そしてそれは」「～だが」とつなぐ。前の名詞にかけて訳し上げると意味が変わることがある。

> He lent me a novel, which I finished in one night.
> 彼は私に小説を貸してくれ、私はそれを一晩で読み終えた。

☐ 5 強調構文・倒置は強調を残す

It is A that ～ は「～なのは A だ」、否定語の倒置は「一度も～ない」「～して初めて」など、強調された部分が目立つ語順で訳す。

> It was not money but time that he needed.
> 彼に必要だったのはお金ではなく時間だった。

◆ ② 品詞を変えてほぐす 5

☐ 1 名詞構文は「文」に戻す

動詞・形容詞から来た名詞は「～が…すること」に戻す。所有格・of が意味上の主語か目的語かを文脈で見る。結果を「～ので」でつなぐと自然。

> His sudden resignation surprised everyone.
> 直訳：彼の突然の辞職が皆を驚かせた →意訳：彼が突然辞めたので、皆が驚いた。

☐ 2 無生物主語は人を主語に

物が主語で人が目的語なら（直訳が不自然な時は）、主語を「～によって／～すれば／～のおかげで」と副詞的に訳し、人を主語にする。

> A short walk will bring you to the station.
> 少し歩けば駅に着く。

× 「短い散歩が君を駅に連れて行くだろう」（直訳のまま）

☐ 3 形容詞＋名詞を述語に

a good cook／an early riser のように「人の性質」を名詞で言う英語は、日本語では「～が上手だ」「早起きだ」と述語にする。

> My father is a good cook.
> 父は料理が上手だ。

× 「父はよいコックだ」（職業と誤解される）

☐ 4 文修飾の副詞は「～なことに」

文頭の Surprisingly／Fortunately や reportedly は文全体への評価。「驚いたことに」「幸いにも」「伝えられるところでは」と文頭に出す。

> The singer is reportedly planning a world tour.
> 伝えられるところでは、その歌手はワールドツアーを計画している。

☐ 5 否定の主語は「～はない」に

No one・Nothing・Few people が主語の文は、「誰も～しなかった」「～する人はほとんどいない」と述語側で否定する。

> No one was injured in the accident.
> その事故でけが人は出なかった。

× 「誰もが事故でけがをされなかった」（不自然な受け身）

◆ ③ 代名詞・時制・助動詞 5

☐ 1 総称の you・we・they は訳さないのが基本

一般の人を指す you・we・they や、いちいちの his・their は訳さない方が自然。「人は」「～ものだ」で処理する。対比があれば「私たちは」などと訳す。

> You never know what will happen in life.
> 人生、何が起こるかわからないものだ。

☐ 2 this・it の中身を書く

指示語は、設問が「内容を具体的に」と求めたら前の文の中身を「～ということ」の形で書く。内容説明なら指示語のままでは点にならない（普通の和訳なら「そのこと」でよい）。

> Many students sleep less than six hours. This affects their grades.
> 多くの学生は睡眠が6時間未満で、そのことが成績に影響している。

☐ 3 時制・完了形を訳に出す

現在完了は継続・経験・完了・結果を見て「～してきた／～したことがある／～した」、過去完了は「（その時）すでに～していた」。

> By the time I arrived, the movie had already started.
> 私が着いた時には、映画はもう始まっていた。

☐ 4 助動詞のニュアンスを落とさない

may（かもしれない／してよい）、must（ねばならない／に違いない）、should have p.p.（すべきだったのに）など、文脈に合う訳を必ず入れる。訳抜けは減点の定番。

> You should have told me earlier.
> もっと早く言ってくれればよかったのに。

☐ **5 受け身は「〜られている」で自然に**

It is believed [said] that ～ は「〜と考えられて[言われて]いる」。by のない受け身は無理に行為者を補わない。能動にするのは不自然さが大きい時だけ。

> It is widely believed that breakfast is important.
> 朝食は大切だと広く考えられている。

◆ ④ 訳語・否定・仕上げ 5

☐ **1 訳語は文脈で選ぶ**

辞書の最初の意味に飛びつかない。address＝取り組む、issue＝問題・(雑誌の)号、mean＝意図する・意味する。目的語との相性で決める。

> We need to address this issue now.
> 私たちは今この問題に取り組む必要がある。

× address を「住所」「演説する」と訳す

☐ **2 否定の範囲を正確に**

not all・not always は部分否定「すべてが〜とは限らない」。not … because は「〜だから…なのではない」になることがある。

> Not all students like math.
> すべての生徒が数学を好きなわけではない。

× 「すべての生徒が数学を好きではない」(全体否定に聞こえる)

☐ **3 省略を補って訳す**

セミコロンやカンマの後で動詞が省略されたら、前と同じ語を補う。than・as の後ろの省略も同じ。

> Some people like summer; others, winter.
> 夏が好きな人もいれば、冬が好きな人もいる。

☐ **4 前置詞は動詞的に訳す**

with＝「〜があれば／〜したので」、without＝「〜がなければ」、for＝「〜にしては」など、前置詞句は節に開くと自然になる。

> With a little more practice, you'll be able to play it.
> もう少し練習すれば、弾けるようになるよ。

☐ **5 最後は日本語だけで読み直す**

主語と述語のねじれ、「〜の〜の〜の」の連続、訳し忘れた副詞を確認。英文を見ずに読んで意味が通るかが基準。

> My dream is to become a doctor.
> ×私の夢は医者になりたい →○私の夢は医者になることだ。

◆ 減点されやすいポイント

見られる所	減点されやすい例	対策
構文	修飾先・並列の取り違え	SV と( )を先に書く
語彙	文脈に合わない訳語	目的語との相性で選ぶ
時制・助動詞	完了・may・should の訳抜け	1語ずつ訳に入ったか確認
否定	部分否定を全体否定に	not の範囲に線を引く
日本語	主語と述語のねじれ	日本語だけで読み直す

◆ 直訳しすぎ／意訳しすぎのライン 4

☐ × ~~その知らせが彼女を幸せにした~~
○ **その知らせを聞いて彼女は喜んだ**
無生物主語は直訳だと不自然。構造は残したまま人を主語に

☐ × ~~彼の失敗する傾向~~
○ **彼は失敗しがちだ**
his tendency to fail は「文」に戻す

☐ × ~~人生は甘くない(原文:Life is not always easy.)~~
○ **人生はいつも楽とは限らない**
意訳で部分否定が消えると減点。訳しすぎ注意

☐ × ~~私たちは環境を守るべきだ(原文:We should have protected …)~~
○ **環境を守るべきだったのに**
should have p.p. の「実際はしなかった」含みを落とさない

◆ 本番で使う5ステップ 5

1. **SV と( )を書き込む**
   主語・述語動詞に下線、修飾語句をかっこでくくる
2. **構文の型で直訳する**
   not until＝「〜まで…しない／〜して初めて」など、型の訳をまずメモ
3. **品詞を変えて語順を整える**
   名詞構文・無生物主語を「文」に戻し、人を主語に
4. **訳語を文脈で選び直す**
   目的語・前後の文と合うか。カタカナで逃げない
5. **日本語だけで読み直す**
   ねじれ・訳抜け・時制・助動詞を最終チェック

実演:直訳→仕上げ

The rapid spread of smartphones has changed the way young people communicate. → 直訳「スマートフォンの急速な普及は、若者がコミュニケーションをとるやり方を変えた」→ 仕上げ「**スマートフォンが急速に普及したことで、若者のコミュニケーションのとり方は変わった**」。名詞構文を文に戻し、現在完了の「変わった(今も)」を残す。

◆ 確認テスト:最も適切な訳は？

1 Not every student passed the test.
a どの生徒もテストに合格しなかった
b すべての生徒が合格したわけではない　c 生徒はみな合格できた

2 His failure to keep his promise made her angry.
a 彼は約束を守れず怒った
b 彼の約束を守る失敗が彼女を怒らせた
c 彼が約束を守らなかったので彼女は怒った

3 I wish I had studied harder.
a もっと勉強したいと思う　b もっと勉強したことを願う
c もっと勉強していればよかった

4 She is a fast learner.
a 彼女は速い学習者だ　b 彼女は急いで学ぶ　c 彼女は覚えが早い

5 Without your help, I couldn't have finished the work.
a 君の助けがないので仕事が終わらない
b 君が手伝ってくれなかったら、仕事は終えられなかっただろう
c 君の助けなしで仕事を終えられなかった

◆ 解答

1 すべての生徒が合格したわけではない not every＝部分否定
2 彼が約束を守らなかったので彼女は怒った 名詞構文を文に戻し、人を主語に
3 もっと勉強していればよかった I wish＋had p.p.＝過去への後悔
4 彼女は覚えが早い 形容詞＋名詞を述語に
5 君が手伝ってくれなかったら、仕事は終えられなかっただろう Without＋仮定法過去完了